

平成 22 年  
11 月 25 日

# 病害虫発生予報 12 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！  
一薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょうー

## < 目 次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

促成ピーマン：アザミウマ類 . . . . . 1

【その他の病害虫】 . . . . . 1

イチゴ，促成ピーマン

### II. 病害虫ミニ情報

施設野菜の灰色かび病とイチゴうどんこ病について . . . . . 2

III. 今月の気象予報 . . . . . 4

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 22 年 11 月 10 日現在のものです。

最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)) で確認することができます。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### 促成ピーマン

##### 1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在，寄生花率は平年並で，発生地点率は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。また，各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は，薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：少ない	11月下旬現在，平年より少ない発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	11月下旬現在，平年並の発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	11月下旬現在，平年並の発生である。

## II. 病害虫ミニ情報

### 施設野菜の灰色かび病とイチゴうどんこ病について

これから春季にかけて施設野菜では、様々な病害虫の発生が見られます。今回はその中から施設野菜共通で重要な病害である灰色かび病と、イチゴうどんこ病について紹介します。

#### 【灰色かび病】

##### 1. 発生生態

灰色かび病は、野菜、花き、果樹等多くの作物を侵す病害です。20℃くらいの多湿条件下で発生が多くなり、好適条件が続くとしばしば大きな被害をもたらします。また当所の調査データでは、冬季から春季にかけて発生の増加が見られます（図1）ので、以下の基本事項に注意して対策を講じて下さい。

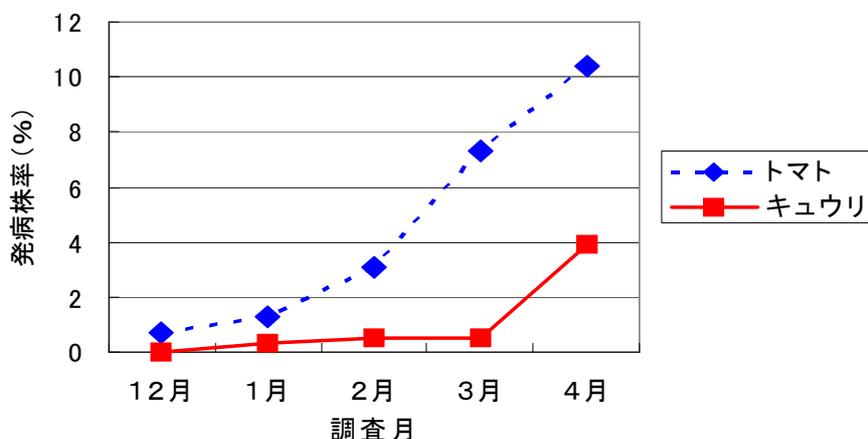


図1 灰色かび病の発病株率の推移  
※トマトは過去10年、キュウリは過去5年間の平均値

##### 2. 防除対策

###### 1) 耕種的防除

###### ① ハウス内を多湿にしない

灰色かび病はハウス内を多湿状態にしないことが重要です。昼近くなっても作物に水滴が残っている場合は、換気、送風、暖房等による除湿に努めて下さい。また通路等もマルチで被覆すると、土壌表面からの水分蒸散を抑制できるので、湿度の上昇抑制に効果があります。

###### ② 通風をよくする

葉が繁茂すると通風が悪くなり湿度が高くなりやすく、また殺菌剤がかかりにくくなるため、灰色かび病が発生しやすくなります。適度な葉かきを行い、通風がよくなるよう心がけて下さい。

###### ③ 発病部位の処分

灰色かび病は発病部に生じた胞子が伝染源となるため、発病部位はできるだけ取り除いてハウス外に持ち出し、処分して下さい。また開花が終わった花卉等は、発生源になりやすいので、できる限り取り除くようにして下さい。

## 2) 生物的防除

微生物農薬による防除として、ボトキラー水和剤やインプレッション水和剤を発病前～発病初期に散布する方法があります。なお、ボトキラー水和剤は灰色かび病の発病前から暖房のダクト内に投入する省力的な方法もあります。

## 3) 化学的防除

灰色かび病は、発生初期の防除が重要です。特に発生に適した条件が続いた場合は、圃場内の発生状況をよく確認し、前述の耕種の防除対策を講じたうえで、薬剤による防除を実施して下さい。また曇雨天が続く場合は、くん煙剤の利用も検討して下さい。

## 【イチゴうどんこ病】

### 1. 発生生態

イチゴうどんこ病菌は、キュウリ、ピーマン、トマト等のうどんこ病菌とは種類が異なります。イチゴ以外の植物にはほとんど感染が認められないので、イチゴからイチゴへ伝染を繰り返すと考えられています。

曇雨天などで日照不足になると、胞子の形成が促進され、晴れた日の午後に胞子が多く飛散します。胞子の発芽適温は17～20℃と、他の作物のうどんこ病菌と比べてやや低く、発病適温は20℃前後です。多くの病原菌の胞子は、水滴がないと発芽できないのに対し、うどんこ病菌は、空気中の湿気でも発芽します。高湿度であるほど発生しやすくなりますが、50%程度の湿度条件でも発生します。また当所における過去10年間の調査データでは、ビニール被覆から12月にかけての発生が多くなる傾向があります(図2)ので、今後の発生に十分注意して下さい。

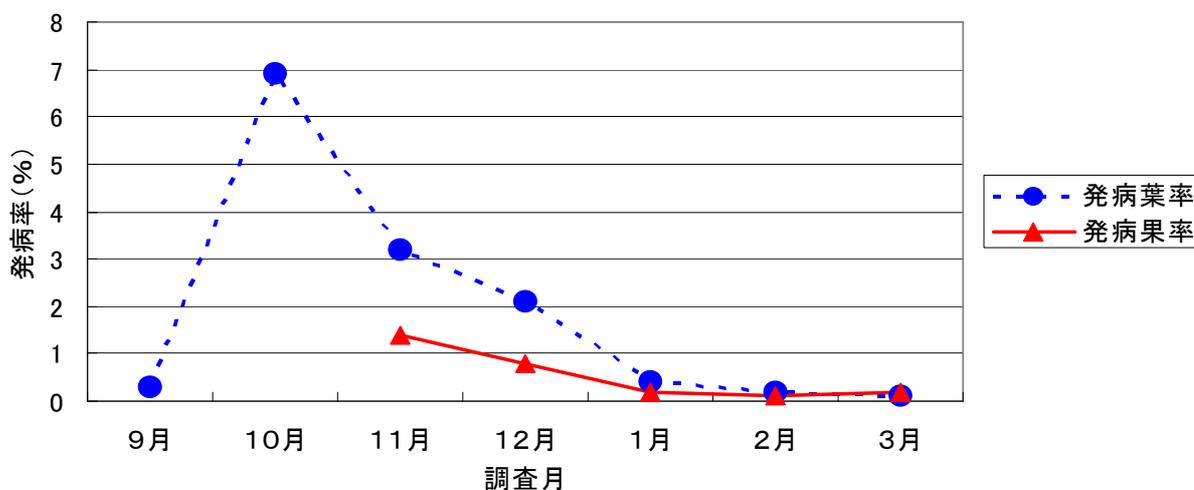


図2 イチゴにおけるうどんこ病の発生推移

### 2. 防除対策

- 1) 発病した葉や果実などはハウス内に放置せずにハウス外へ持ち出し、土中深く埋める等の処分をして下さい。
- 2) 発病を予防するため、硫黄のくん煙処理による省力的な方法もあります。
- 3) ミツバチ導入後は使用できる薬剤が限られるため、薬剤を選択する際はラベル等で確認して下さい。

※薬剤散布の際は耐性菌の出現を避けるために、系統の異なる薬剤のローテーション散布を心がけて下さい。なお、農薬名(商品名)が異なっても同一の有効成分を有する剤もありますので、有効成分の総使用回数を超えないよう十分注意して下さい。

### Ⅲ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 11月22日から12月19日)

気象庁 (11月19日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 11月20日(土曜日)から11月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<2週目の予報> 11月27日(土曜日)から12月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

<3週目から4週目の予報> 12月4日(土曜日)から12月17日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率40%

#### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。